

Interview with the Power of Voice

HELASSE FRÖBERG



どうしてHasse Frobergというシンガーはこうも器用なのだろう？ボーカルでは観客を魅了し、バックギターではRoineを好アシスト。パーカッションを叩かせれば素晴らしいリズム感を持って、Hasse B.の役をしっかりとこなす。日本版ファンジンが、昨年の北米ツアー中にBrian Dorbuckの協力を得て独占インタビューをした。

Brian (以下B): お元気ですか？ アメリカ・ツアーはどんな感じですか？

Hasse (以下H): いろんなことが起こったけど、実際上手くいっているよ。ツアーに関しては、音楽面ではとても良いんだけど、移動が多いし、睡眠時間は少ないし、小さい問題が沢山起こったよ。今回パンクはしなかったけど、車に関する小さなトラブルはあって、今、バッテリーが上がっちゃってパンが動かないし(笑)。いろいろ上手いかないことがあるけど、でも元気で、仲良くやってるよ。

B: だから今インタビューしてるんですよ？(笑)

H: そうだね(笑)。

B: 昨秋のヨーロッパ・ツアーから何か変化はありますか？

H: そう思うよ。前回のヨーロッパ・ツアーではセット・リストがあって、殆ど毎晩それを演っていたけど、今回は殆ど毎晩違う曲をやっているんだ。何回かの公演では、必ずやる曲数曲以外は殆どジャムとカバーだったよ。

Danielはポジティブなヴァイヴを持ち込んでいるよ。

B: 「UTF」とそのツアーでHasseはDaniel Gildenlowとヴォーカルを分け合った訳ですが、Danielの事は元々知っていましたか？ Danielと一緒にやるのはどんな感じですか？

H: Danielの事は知っていて、今は友達だけど、その前に一緒に仕事をしたことはな

かったんだ。Danielと仕事をするのはとても楽だよ。彼のできることに限界は無いからね。ギターはものすごく上手いし、すごいキーボード・プレイヤーで、素晴らしいドラマー／パーカッショニストで、そして皆知っているように良いシンガーだ。僕達は二人とも楽しんでいるし、Roineと一緒に歌うのも好きだよ。良いヴォーカル・サウンドになるからね。

B: Danielがヴォーカルや演奏面で負担を軽くしているとか、音楽をより広げていると思いますか？

H: 彼が負担を減らしているとか、僕を脅かしているとかは思わないね。Danielはポジティブなヴァイヴを持ち込んでいるよ。人間的な部分もあるからね。

B: 音楽により広がりをもたらしているということですか？

H: そうだね。ポジティブな事しか言うことはないよ。

B: アルバムではHasseはシンガーとしてクレジットされていますが、ライブではギターやアコースティック・ギターも弾きますね。曲のアレンジや、どのパートを担当するというのは、どうやって決めるのですか？ リハーサルでですか、それともRoine(とDaniel)と前もって決めておくのですか？

H: 他の連中は、「アルバムでやっていることをすれぱいいんだから簡単だよ」って言うから、僕は「そんなに簡単じゃないよ、僕はアルバムでは(楽器を)プレイしていないんだから」って言ってたんだ(笑)。だから家でじっくりと、何をすればいいのか考えるんだ。もしハーモニー・ギターとかがあれば、僕が弾くのに向いていそうだと思うのをやってみるんだ。それからRoineに電話して、どう思うか聞いてみる。もし僕がこうしたらRoineはこっちのハーモニーを弾くかとか、アコースティックでやるか、エレクトリックでやるのかを話すんだ。かなり自然に決まっていると思うよ。大半は家でアルバムを聞きながら「宿題」をする

んだ。それからツアーに出る前のリハーサルでちょっとした調整をするよ。でも、かなり自然に決まるんだ。

B: ライヴではスライド・ギターやパーカッションも披露しますが、もともとプレイしていたのですか？ それともTFKに加入してから演奏するようになったのですか？

H: スライド・ギターはしばらくプレイしていたんだ。パーカッションは、僕ができるってRoineは知っていたんだよ。僕は最初にドラムから始めたんだけど、ドラム・キットに15年ぐらい触ってなかったんだよ。でも一回やったことがあれば覚えているもんだよね。完全には忘れていないんだ。僕がバンドに入る前、Hasse Bruniussonはツアーにも同行して、沢山パーカッションをプレイしていた。それで、僕は(パーカッションを加えるのは)いいじゃないかと言ったんだ。何曲かはそれ以上ギターが必要じゃなくて、パーカッションをするのにより適していたからね。

僕らは何年も一緒にプレイしているから、この曲のこのパートにどんな感じの音が必要かとかそういうフィーリングがあるんだ。

B: 機材について教えて下さい。

H: そんなに話すことはないよ(笑)。殆どいつも違う物を使っているし。というのも、ここ(北米)ではいろいろレンタルしているし、フェスティバルの時は行くと機材は会場にあるからね。

B: ギターは？

H: '70年代のギブソン・レスポールを持っているよ。それから使うのはヤマハのSP-Xかな。それから幾つかのエフェクトと、ディレイやリヴァーヴといったBossのエフェクト・ペダルがいくつかあるよ。家にマーシャルの古いベース・アンプがあって、Tech21(註:アンプシュミレータの老舗ブランド)を持っていた時にはギター・アンプにしていたんだけど。

B: レスポールはスタンダードのゴールド・トップですか？

H: カスタマイズされていないよ。手は入っていないんだ。

B: どこで買ったんですか？ 新品だったのですか？

H: Uppsalaの店で買ったんだ。僕は左利きだからそんなに選択肢がないんだよ。(その頃)レスポールを探していたんだ。テレキャスターと、ストラトキャスターを持っていたからね。それとハーグストロムも。ボディが大きなギブソンに見える、エレクトリックで半分アコースティックのなんだ。ハーグストロム Vikingって言われているので、今売ったらけっこう高く売れるよ。Elvis Presleyがこのタイプのギターを持っていたんだ。だからコレクターには絶対欲しい物だろうね。

B: ライヴでのサウンドやエフェクトについてですが、RoineがHasseに任せるのですか、それともRoineと相談するのですか？

H: 僕達はただプレイしてみて、もし何か変わったったり、ある音が完全におかしかったら、どうできるか話し合うんだ。

B: グループで決めるんですね？ Roineが指図する訳ではないんですね？

H: そう、グループでやるんだよ。僕らは何年も一緒にプレイしているから、この曲のこのパートにどんな感じの音が必要かとかそういうフィーリングがあるんだ。

'80年代後半まで、自分の声がそんなに好きじゃなかったんだ

B: ファンジンにHasseのインタビューを載せるのは初めてですし、概してHasseのインタビューをみつけるのは非常に難しいです。そこで、基本的な質問をさせて下さい。小さい頃、ドラムとギターを習っていたと聞いていますが、何歳で始めたのですか？

先生について習ったのですか、それとも自己流ですか？

H: スウェーデンでは、誰もが無料の音楽の学

校に行くことができるんだ。でも自分の楽器を選ぶ前に、皆木の笛を習わなくちゃいけないんだ。

B: 学校のシステムなんですか？

H: 誰でもタダで習えるんだけど、義務じゃないんだよ。その後僕は笛はやりたくなくて、ギターをやりたかったの、ギターを始めたんだ。右利きとして始めたんだけど、何も起こらなかった。全然弾けなかった。何かがおかしかったんだ。突然ギターの先生が、こうした方がいいかもしれないから(左利きに)変えてみようと言ったんだ。その後僕はギターを弾くのがずっとやり易くなったよ。笛を始めたのは10歳で、ギターを始めたのは11歳、ドラムのレッスンをとったのは14歳か15歳だったね。ブルース・バンドで1年ぐらいドラムをプレイしていたんだよ。それから、他のバンドもやっていて、ここでは僕はギターとヴォーカルを担当していたんだ。これはポップ・バンドで、17歳か18歳の頃だ。パンクとハードロックとポップのミックスみたいな音楽をスウェーデン語の歌詞でやっていたんだ(笑)。

B: スウェーデン語のSEX PISTOLSですか？

H: あ〜、そんなもんだよ(笑)。その後ハードロック・バンドを始めたんだ。そのバンドのベーシストと一緒にね。彼はギタリストとして始めて、ベーシストになったんだけど。その後がSOLID BLUEで、本当にドラムをプレイするのはやめてしまったんだ。

B: 家族に楽器を演奏する人がいたのですか？

H: いや、いなかったよ。ずっと前、おじいさんのおじいさんか誰かがバイオリンをやったと聞いたけど、それだけだよ。

B: どんな音楽が好きで、どんなミュージシャンに影響されましたか？ プログレも聴いていましたか？

H: 振り返ると、'70年代の、特に前半の全ての音楽だね。THIN LIZZYからDEEP PURPLE、それにビッグなプログレ・バン

ド。僕はすごいYESファンで、GENESISももちろん好きで、CAMELのアルバムも何枚か持っていて、EL&Pもちょっと好きだった。でも多くはハードロックだったね。影響については、LED ZEPPELINが一番だね。あとQUEENの大ファンでもあったんだ。たぶん「Jazz」までだね、その後はディスコっぽくなりすぎたから。こういったバンドが本当に影響を与えたんだよ。

B: いつ頃バンドを始め、当時のパートを担当していましたか？ BARRELHOUSEでシンガーだったと聞いていますが、シンガーとしてはこれが最初のバンドだったのですか？

H: さっき言ったポップ・グループがあって、BARRELHOUSEは僕は募集広告に応募したんだ。他のメンバーをよく知らなかったんだよ。彼らはUppsalaにいて、僕はKnivstaに住んでいたんだ。僕らは本当の意味ではバンドじゃなかったよ。1枚シングルを作って、その後で普通のLED ZEPPELINのカヴァー・バンドみたいな感じでショーをいくつかやったんだ。でも良い友達だよ。ドラマーはアメリカ人と結婚して今はAustinに住んでいるんだ。僕らがプレイする時は、ふつう彼の家でするんだよ。彼が2年に1回スウェーデンに帰ってくるから、時間があればリハーサルをして、ショーをするんだ。

B: あるHPではHasseは「リードシンガーになりたくなかった」という記事を読んだのですが、本当ですか？ それはなぜですか？

H: 当時、皆ドラマーかギタリストになったかったんだ。少なくとも僕がプレイしていたようなバンドではそうだったよ。僕は強制されたという訳じゃないけど、一番にグープアップして、自分が歌うと言ったんだ。僕はたぶんレコーディングをして慣れてきた'80年代後半まで、自分の声がそんなに好きじゃなかったんだ。僕の声はかなり薄くて、だからもうちょっとbodyをつけるようにしなくちゃいけないって、テクニックを身につけなくては行けなかったんだ。